

製品名: CHD9 ウサギポリクローナル抗体**カタログ番号: APRab08751**

研究使用のみ

概要

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	IHC, ICC/IF
反応性	ヒト、マウス
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

応用

希釈倍率	IHC 1:50-1:300, ICC/IF 1:50-1:200
分子量	318kDa

抗原情報

遺伝子名	CHD9
別名	KIAA0308 KISH2 PRIC320 AD-013 x0008
遺伝子 ID	80205.0
SwissProt ID	Q3L8U1
免疫原	ヒトタンパク質の一部領域から得られた合成ペプチド

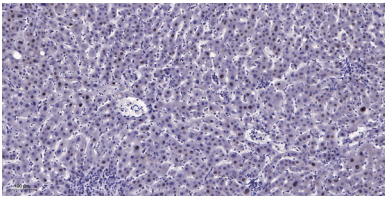
背景

機能: PPARα およびおそらく他の核内受容体の転写共役因子として機能します。ATP 依存性クロマチンリモデリングタンパク質であることが提案されています。DNA 依存性 ATPase 活性を持ち、A/T に富む DNA に結合します。骨形成中の前駆細胞の分化に関与する

遺伝子のプロモーター内の A/T に富む調節領域と会合します。、PTM:セリンおよびチロシン残基がリン酸化されています。、配列注意: フレームの選択が間違っています。、類似性:SNF2/RAD54 ヘリカーゼファミリーに属します。、類似性:1つのヘリカーゼ ATP 結合ドメインを含みます。、類似性:1つのヘリカーゼ C 末端ドメインを含みます。、類似性:2つのクロモドメインを含みます。、サブユニット:PPARA と相互作用します。 ESR1 および NR1I3 と相互作用すると考えられる。、組織特異性: 低レベルで広く発現している。骨髄では、成熟骨芽細胞に隣接する骨前駆細胞にのみ発現が限定されている。、機能: PPARA およびおそらく他の核内受容体の転写共役因子として作用する。ATP 依存性クロマチンリモデリングタンパク質であると提唱されている。DNA 依存性 ATPase 活性を有し、A/T に富む DNA に結合する。骨形成過程における骨芽細胞の分化に関与する遺伝子のプロモーター領域において、A/T に富む調節領域と関連する。、PTM: セリンおよびチロシン残基がリン酸化されている。、配列注意: フレームの選択が間違っている。、類似性: SNF2/RAD54 ヘリカーゼファミリーに属する。、類似性: ヘリカーゼ ATP 結合ドメインを 1 つ含む。、類似性: ヘリカーゼ C 末端ドメインを 1 つ含む。、類似性: クロモドメインを 2 つ含む。、サブユニット: PPARA と相互作用する。おそらく ESR1 および NR1I3 とともに相互作用する。、組織特異性: 低レベルで広く発現している。骨髄では、成熟骨芽細胞に隣接する骨芽細胞に発現が限定されている。、

研究分野

画像データ



パラフィン包埋ヒト肝癌の免疫組織化学分析。1、抗体を 1:200 に希釈した (4°C で一晩)。2、抗原賦活化には Tris-EDTA、pH9.0 を使用した。3、二次抗体を 1:200 に希釈した (室温、45 分)。